

島地地区解説

島地の名前の由来は不明だが、「八幡宮本紀」には康和年（1099～1103）には嶋地の地名が見えるとある。平安時代、既にこの名前と呼ばれた集落があったことになる。そのころのことは資料も乏しく村の様子を知るべくも無いが、幕末に著わされた「防長風土注進案」によれば「嶋地市には商家や職人家が軒を連ね、町裏にも家が多数ある。」「市日には近郷の農商人が群集して穀類、農機具、諸産物、紙楮などを交易する」とある。

①ロハス島地温泉

島地温泉を核とした交流施設。地産地消を実現する野菜市やレストラン、ミニスーパーも運営する。各種イベントも計画中で、地域内外との交流を促進する。

②雨田公園

国道から急な坂道を登ると雨田公園がある。ここは島地黙雷上人(1838～1911 明治44年歿)を偲んで建てられた雨田草堂や石碑がある。黙雷上人は明治時代の本願寺派の高僧で、明治に吹き荒れた廃仏毀釈に対する抵抗運動、「新聞雑誌」発行、女子教育(現千代田女子学園の前身女子文芸舎を創立)に多大な足跡を残した。妙誓寺の住職(1867～)であったのは10年。実際に寺に住まったのは1年半と短い、その後も島地にたびたび立ち寄り(彼の姓はこの地名をとった)、地域の人との交流を保ち続けた。雨田草堂は還暦のお祝いに地元有志が贈ったもの。ここからの眺めがお気に入りだったという。今も黙雷忌に人々が集う。雨田は黙雷の雷という字を二つに分けてつけた号。

③島地分館(徳地地域交流センター)

この地域の方々の集会所です。駐車場とトイレを借ります。

(温泉まんじゅう)

島地温泉が掘り当てられた昭和30年代から温泉マークの蒸し饅頭が親しまれている。

④妙誓寺

大内氏の旧臣が、大内義隆とその先祖を祭るため建立したと伝えられる。上記の島地黙雷は16世の住職である。境内にて75年来島地保育園が運営されている。境内や参道で盆踊りが行われるなど、幼児保育を通じて仏の教えや伝統が伝えられる。

⑤福田貝館

福田さんは1971年以来世界中から貝殻を収集されている。収集された約5000種の内、3500種が展示されている。お留守のこともあるので事前に予約しておきたい。

電話：0835-54-0011/0835-54-1020

⑥花尾八幡宮

和銅4年(711)豊前国宇佐八幡宮より御神霊を賜りお迎えした。以来2度の火災にあい現在の社殿は元明元年(1781)に造築されたもので、昭和33年11月市の文化財に指定された。獅子頭2(鎌倉時代の作)、ガラスの絵馬(明治)も文化財として価値が高い。境内にあるご神木のムクは樹齢650年。高い石段の上の本殿も素晴らしい。社叢は原始の状態を残し、学術的にも価値が高い。

(島地タクシー 電話：0835-54-0115)

⑦馬頭観音

18世紀、大久保地区の開墾事業の際、荒地を開墾中斃死した馬を惜しんで観音を彫り、霊を弔ったもの。

⑧手漉き和紙工房

千々松氏は山口市指定無形文化財。島地はかつて和紙の生産地として栄えたが、現在、生産されるのはここと山内農場だけになってしまった。

⑨越峠(こえと)

藤木と島地を最短距離でつなぐ、小さな峠。

⑩観念寺

浄土宗知恩院の末寺で、屋根瓦に葵のご紋が見える。阿弥陀仏を本尊とする。観音信仰も篤く毎年8/10には朝観音のお接待がある。隣接する石風呂は大変大きく民俗学的にも価値が高いと思われる。石風呂脇にあった重源上人像も立派なもの。今は本堂に保存。

⑪出雲大社周防分院

明治初年に地元の人達によって大社教島地教会所として設立。正月、節分祭、夏季祈禱大祭、秋季謝恩大祭、注連縄づくりなど、四季折々の行事に集う。春の桜も見事で花見客も訪れる。

入り口右に孝子高嶋常吉の碑がある。

⑫慶福橋

この橋から土手道を島地川沿いに歩く。かつて、ここは禁漁区で、歩いていても大きな鯉が見えた。今は葦が生い茂り、白鷺、青鷺、鴨、鴛鴦(おしどり)などが優雅な姿をみせる。5/5の子供の日に先立って、菜洗い橋の袂で鯉幟が上げられる。100匹近い鯉幟が風に舞う様は壮観である。